

新完全マスター **読解**
日本語能力試験 **N1**



かいとう かいせつ
解答と解説

実力養成編

練習1

芸術について書かれた文章である。

「旧ソ連やニューヨーク」と「日本」の対比に注目して、芸術についての筆者の考えを読み取る。

- ・旧ソ連やニューヨークではアーティストが優遇されている(第1段落)。
- ・日本では義務教育の教科から美術の時間が減らされたりしている(第2段落)。つまり、芸術が軽視されていると言える。

このような状況を見て、筆者は芸術の必要性を主張している。

- 1: 正解
- 2: 美術の時間がなぜ減ったかは、この文章のテーマではない。
- 3: アーティストに住居を提供するべきだとは書かれていない。
- 4: 「美」が重要なのは、人の心を豊かにするからではない。

練習2

東京と大阪の違いについて書かれた文章である。

「東京」と「大阪」の対比に注目して、「小異(=小さな違い)」を読み取る。

- ・東京の編集者やカメラマンは、大阪では一般市民が簡単に岸壁に出られることに驚いた(第3段落)。
 - ・筆者(大阪の人)は、東京では岸壁に出られないことに驚いた(第3段落)。
- 筆者はこの体験から、東京は海岸線が閉じられている(=岸壁に出られない)が、大阪は開いている(=岸壁に自由に出入りする)という違いに気づいたのである(第5段落)。

- 1: 都市風景が似ているとは書かれていない。また、この文章のテーマは「小異」であって、似ている点ではない。
- 2: 出入口の向きについては書かれていない。
- 3: 違いは実際に岸壁に出られるかどうかで、一般市民がそれを知っているかどうかではない。
- 4: 正解

練習3

「おふくろの味(=今の男性が昔を懐かしんで求めている惣菜)」について書かれた文章である。

「昔」と「今」の対比に注目して、「おふくろの味」に対する筆者の考えを読み取る。

- ・昔は料理の素材がおいしかった(第3段落)。
 - ・今の素材は見た目も同じでも「全く別物」、つまり、全く違うものである(第3段落)。
- 素材がおいしくないから、昔と同じ料理を作っても、今は味気ないものになる(第5段落)。

このことから筆者は、男性が懐かしがる「おふくろの味」など、今はとうてい再現できない味なのだ、と述べている。

1：この文章のテーマは里芋ではない。

2：おふくろの味にもの珍しさを感じているのは筆者である。現代人ではない。

3：正解

4：今の料理が美味しくないのは、素材の味が違うからである。主婦の手抜きの手抜きではない。

練習4

リーダーシップ論について書かれた文章である。

「ここ十年くらい」と「いま」の対比に注目し、なぜ今「リーダーシップ論」が再燃してきたのかを読み取る。

・ここ十年くらい、日本の組織は古い構造を壊そうとし、「個人化」「自由化」の方向に進めようとしてきた。上からの支配や管理は「悪」と見なされたため、「リーダーシップ論」ははやらなかった(第2～3段落)。

・今は、「個人化」「自由化」が進みすぎて、自分一人では「どうしていいかわからなくなってきた」人が増えた(最後の段落)。

そのため、多くの人々がリーダー(=どうしたらいいか教えてくれる人)に支配されたいと考えるようになったのである(第1段落)。

筆者は、この人々の心理の変化が今の「リーダーシップ論」人気の理由だと述べている。

1：正解

2：個人化が進んでいないのではない。「あまりに進みすぎた」と書かれている。

3：組織が管理を強めはじめているとは書かれていない。

4：人びとは能力の高いリーダーを求めているわけではない。

練習5

筆者の幼稚園時代の思い出について書かれた文章である。

「地獄」の言い換えが何かをつかみ、どんな思い出かを読み取る。

「地獄」=幼稚園の「お弁当室」と呼ばれる部屋の戸口の床の、…そこだけタイルの色が変わっている部分

園児たちは「みんな決死の覚悟で「地獄」を飛び越えた」のである。

1：「地獄」は床の一部であって、部屋ではない。

2：床を踏まなければいけなかったのではなく、踏まないように飛び越えていた。

3：先生たちが考えていたのではなく、園児たちが考えていた。

4：正解

練習6

デパートへ行くという昭和40年代の娯楽について書かれた文章である。

言い換えに注目して、デパートに行くとはどんなことだったかをつかむ。

「家族そろってデパートへ出かける」＝「日曜日の娯楽」＝「おでかけ」(第1～2段落)

「おでかけ」のときは「よそゆき」でめかしこんで＝「ハンドバッグ…帽子…ベルトつきの靴をはく」。つまり、おしゃれをしていた(第2段落)。

当時の「おしゃれ」は「白いものは白く、…ぜいたくな衣装で着飾ることはなかった」(第3段落)。

つまり、洗濯された服を着、磨いた靴を履くなど、清潔できちんとした服装を身につけて家族でデパートへ出かけることが、昭和40年代の娯楽だったのである。

1：毎週出かけるとは書かれていない。デパートは特別な場所で、日常的な場所ではない。

2：「白いものは白く、磨くべきものは磨き」は服装を指す。家事を済ませる意味ではない。

3：正解

4：当時のおしゃれは「ぜいたくな衣装で着飾ることはなかった」と書かれている。

練習7

医学と医療について書かれた文章である。

言い換えに注目して、筆者の考えを読み取る。

「医学や医療が生まれ発達してきたのは、人間に幸福をもたらすためである」

「医学医療」＝「幸福のためのインフラ」

「インフラ」＝「安定供給」が必要なもの

つまり、筆者は「医学医療」は安定供給されるべきだと考えている。

1：水や電気はインフラの具体例。医学医療が水や電気の上に存在すべきなのではない。

2：医学や医療の発展ではなく、「安定供給」を主張している。

3：いかに幸せに生きるかを考えるべきだとは書かれていない。

4：正解(幸福な生活の基礎＝幸福のためのインフラ)

練習8

筆者が銭湯で感じることに書かれた文章である。

筆者が銭湯で感じるという「気分」を、言い換えに注目して追っていく。

「なんだか落ち着かない、そわそわしたような気分」もあった(第1段落)。

「赤ん坊を見ては…と思う」「胸のしっかり膨らんだ体を見て…と複雑な気分」。「老女の体を見て、

…としみじみ感じる」(第2段落)

＝「たくさん体がすべて自分の体で…、繋がっているのだと思えてくる」(第2段落)

＝「このわたし」なんてものは個人を超えた大きなものの、やっぱり一瞬間でしかないような気分

ち」になる(第3段落)。

つまり、筆者は、銭湯でさまざまな世代の裸を見て、自分は大きなものの一瞬間に過ぎないと感じるのである。

1：老女の体を「わたしの体の未来」と感じているが、これを悲しいとは言っていない。

2：不完全なものであると感じたとは書かれていない。

3：正解

4：少女と自分、老女と自分、という繋がりについて「不思議」だと述べている。少女から老女への体型の変化が不思議なのではない。

練習9

赤ちゃんの笑いについて書かれた文章である。

筆者は赤ちゃんの笑いをどう考えているか、言い換えを追って読み取る。

「赤ちゃんが…生まれて初めて見せる笑い」=「エンジェル・スマイル」

=「赤ちゃんがこの世に出てきて、初めて親に示す挨拶」

=「親を喜ばせ、よろしくお願ひしますというサイン」=「新生児微笑」

赤ちゃんは笑うことで親と良い関係を作ろうとしている。つまり、赤ちゃんが笑うのは、生きるために世話をしてもらう必要があるからである。

筆者は、この新生児微笑が「人間の遺伝子に刷り込まれてある」=「人間が生得的に備えた能力」であると考へている。

1：「生理的痙攣であると言ひ人がいる」が、これは筆者の考へではない。

2：正解(「現れ」=「顕在化」)

3：筆者は科学的な分析を行っていない。

4：その表現は「言い得て妙」と書かれている。誤解は含まれていない。

練習10

リーダーについて書かれた文章である。

「おびただしくチームの足並みを乱す要因」(第1段落)となる「あるメンバー」がいた場合、リーダーはまず何をすべきか読み取る。まとめると、次のようになる。

リーダーは、「あるメンバー」(=「周りのメンバーからNOを突きつけられた人」)を外す勇気が必要だ(第2段落)。ただし、軽々しく外してはいけない。まず、その人(=「周りとかみ合わない人」=「本人」)を変えていく(第3段落)。その人(=「他のメンバーの反応がよくない人」)と何度も話し合い、改善されなければ外す(第4段落)。

第4段落後半の「つまり」以下が、それまでの内容のまとめ(=言い換え)となっている。

「メンバーを外すなら」「まずあなた(=リーダー)が」「その人に何度も働きかけることが先」だと書

かれています。

1: 正解

2: リーダーは「外すという決断」ができる。辞めさせる権利はある。

3: メンバー全員で話し合うのではない。問題のあるメンバーとリーダーが1対1で話し合うのである。

4: メンバーを改善できなければ、その人を外すことが必要だと書かれている。周囲の意見を聞くのではない。

練習11

人間についての筆者の考えを読み取る。

美しく輝く「星」は、「輝いている人間(=成功して、素晴らしい人生を送っている人)」の比喩である。

「何千光年という遠くの地球から見れば」=「端から見れば」

「何億度という熱で燃えている」=大変つらい思いをしている

つまり、成功している人間は羨ましく見えるが、実は本人は大変つらい思いをしているのだという内容である。

1: 燃え尽きてしまう運命にあるとは書かれていない。

2: 正解

3: 筆者が実感できるのは、生きる情熱ではなく、輝いているのが辛いということである。

4: 体が熱くなるというのは比喩であって、物理的な「熱」という意味ではない。

練習12

鼻の役割についての筆者の考えを読み取る。

「門衛小屋」は、「鼻」の比喩である。

「小屋の建築の見てくれの美観」=鼻の形の美しさ

「門衛の失職する心配」=鼻の役割(匂いで、体内に侵入しようとするものを点検し、あやしいものを拒絶する役割)がなくなる心配

つまり、人は鼻の形の美しさばかりを気にするが、それでも、今後も鼻の役割がなくなることはないだろう、という内容である。

1: 正解

2: 現代では「見てくれの美観だけが問題になる」が、筆者の言いたいことは、それでも鼻の役割はなくなる、ということである。

3: 筆者の言いたいことは、鼻の役割とは何かということだけではない。

4: 大切にすべきだ、とは書かれていない。

練習 13

箱根で「くつろぐ」ことについて書かれた文章である。

「建物が物を言う」「ドアも、…すべてが語り出す」は、建物やドアを人間にたとえている。

「物を言う」「語り出す」=筆者に(「家内が居なくなったことを」)伝える=感じさせる

つまり、箱根のホテルは、妻はもういないという事実を強く感じさせる場所である。そのため、筆者はそのホテルでくつろげなくなってしまったと述べている。

- 1: 妻は留守がちではなく、「居なくなった」と書かれている。
- 2: ホテルがうるさいとは書かれていない。「物を言う」「語り出す」というのは建物やドアが本当に声を出して話すという意味ではない。
- 3: 新鮮に思われるとは書かれていない。
- 4: 正解

練習 14

短編小説についての筆者の考えを読み取る。

「宝物」は「素晴らしい短編小説」の比喩である。

「宝石箱にしまい」=自分だけのものにして、だれにも知られないように大切に隠しておく

「裏庭の片隅にひっそりと湧き出ている泉の底」=自分の近くだが、普段は目に触れず、また、ほかの人に知られることもない場所

つまり、素晴らしい短編小説は、自分一人だけで味わい、特別なとき(=つらいとき)に読み返すと安心する大切なものだという内容である。

- 1: 宝石箱は比喩である。本当に箱に入れるのではない。
- 2: 長編小説のほうが価値が認められているとは書かれていない。
- 3: 正解
- 4: 人に小説の名前を教えるかどうかではなく、筆者にとって素晴らしい短編小説がどんなものかが、この文章のテーマである。

練習 15

装飾という面から見た、人間と動物との違いについて書かれた文章である。

疑問提示文に注目して、筆者の考えを読み取る。

「人間と動物との決定的な違いは、どういふ点にあるのであろうか」

→答え:「人間が服を脱ぐことができる点にある」(第2段落)

=「…服を着たり脱いだりすることができる自由、…服を脱ぎ替える自由をもっている点にある」(第3段落)

=「…自由にこれを採用したり捨てたりすることができる」(第5段落)

つまり、人間は、装飾を取ったりつけたりできる自由をもつ点が、動物と違うのである。

1：動物について述べた文章ではない。テーマは人間と動物との「違い」である。

2：「パラドックス」はエリック・ギルの意見に対する筆者のコメントで、この文章のテーマではない。

3：正解

4：「異性と交友」を装飾と捉える見方は筆者の見方で、それが一般的かどうかは書かれていない。

練習 16

自由について書かれた文章である。疑問提示文に注目して、筆者の考えを読み取る。

「一般に自由はどのように捉えられているだろう？」(第1段落)

→答え：「決められたスケジュールがない状態」(第2段落)

=「支配からの解放」(第5段落)

「はたして、これが本当の自由だろうか？」(第4段落) (反語→本文p.31)

→答え：いや、自由ではない(反語に含まれた筆者の主張)

「解放されたことで何ができるのか、といった「自由の活用」へは考えが及んでいないように見える(第5段落)からも、自由は解放であるという考えに否定的な筆者の主張が読み取れる。

1：「必ずしも、「自由」は素晴らしい意味には使われていない」とあり、価値あるものと捉えられているのではない。

2：これは一般的な考え方であって、筆者の考えではない。

3：何もしたくなくなってしまうとは書かれていない。

4：正解

練習 17

行動の原因について述べた文章である。

疑問提示文に注目して、一般的な答えと、それに対する筆者の考え方を追っていく。

「たとえば…のはなぜなのか」(第1段落)

→多くの人の答え：「意志が弱い」から(第2段落)

：「意志の弱さ」「やる気のなさ」「引っ込み思案な性格」(第3段落)

「意志とか、やる気とか、性格というのはいったい何なのだろう」(第3段落)

=「なぜ、その人(=タバコがやめられない人)の意志は弱いといえるのだろうか」(第4段落)

→答え：意志が弱いのは、「タバコをやめようと思っっているのにやめられないから」

この一般的な答えについて、筆者は「どこか変ではないか(第4段落)」と述べている。

つまり、多くの人は行動の原因を「意志」や「やる気」や「性格」のせいだと考えているが、これは論

理的に^{りてき へん}変だ、ということである。

- 1: 多くの人の考えを述べたいのではない。
- 2: 正解
- 3: 禁煙の話は例である。
- 4: 説明することができないとは書かれていない。

練習18

頭が整理されることと眠ることの関係を述べた文章である。

指示語を含む文を見る。

①それは「妨げられると、寝ざめが悪く、頭が重い」ものである。

②それは何か、さかのぼって探す。対比に注目する。

- ・「朝目をさまして、気分爽快である」←夜の間に、頭の中が整理されているから
 - ・「[朝]寝ざめが悪く、頭が重い」←それが妨げられる(=頭の中が整理されていない)から
- 「整理」とはどういうことか、さかのぼって見る。

「記憶しておくべきこと、すなわち、倉庫に入れるべきものと、処分してしまってよいもの、忘れるものとの区別が行なわれる。自然忘却である。」

つまり、記憶すべきことだけを残り、要らないものは忘れるということである。

- 1: 記憶しておくことではなく、記憶すべきか忘れるべきかの「区別」をすることである。
- 2: 気分爽快に目覚めるのは「それ」が妨げられなかったときである。「それ」ではない。
- 3: 整頓するために思考するとは書かれていない。
- 4: 正解

練習19

ボランティアな活動に向かう若者の意識について書かれた文章である。

指示語を含む文を見る。

①こういう意識とは「若者を…ボランティアな活動に向かわせている」意識である。「こういう」が何を指しているのか、その前の部分から探す。

こういう(若者をボランティアな活動に向かわせている)意識

=「生きがいを見つけない」「充実感を…感じたい」「自分自身の居場所を見つけない」といった願望が実現できるかもしれない、という意識

- 1: 正解
- 2: もっと楽に生きたいという意識が若者にあるとは書かれていない。
- 3: 「不況の中の豊かさ」「幸運な時代」は若者の意識ではない。
- 4: 若者は「願望を実現できる」可能性をすでに感じとっている。感じとろうとするのではない。

練習20

旅行する理由について書かれた文章である。

指示語を含む文を見る。

①それは、旅行の「動機」であり、「存在理由」である。

①それが何を指すか、前の部分から探す。

→「そんなことしても無意味だし、キリないじゃないか」

→「そして彼女はそれをやめることができなくなってしまう」

彼女がやめられなくなってしまうことの詳細を見る。

それ＝アクロポリスの柱に触る、死海の水に足をつける、など

つまり、実際に現地へ行き、触り、体験することを指す。

1：自由については書かれていない。

2：「やめることができなくなってしまう」とは書かれているが、旅を続けたいとは書かれていない。

3：正解（現実的な感触＝実際に触り、体験すること）

4：無意味な行動がしたいとは書かれていない。

練習21

愛情には、束縛やコントロールが含まれると論じた文章である。

指示語を含む文を見る。

①そんな図式とは「監督と俳優との間にも成立する」「アスリートとコーチとの関係にも似たところがありそうな」図式である。

図式の内容を前の部分（陶芸家の師匠と弟子の関係）から探す。

直前の文にある「尊敬する師匠にコントロールされることが、ひたすら嬉しく感じられそうに思える」を指す。

1：指導者の気持ちについては書かれていない。

2：正解（指導者＝師匠）

3：弟子が指導者をコントロールするかどうかは書かれていない。

4：弟子と指導者がコントロールし合うとは書かれていない。

練習22

裁判官の仕事に必要なことについて書かれた文章である。

下線部を含む文の構造を見る。

対比に注目する。

・「争っている者たちは主観的な意見や…をぶつけあうかもしれないが、」

・「[Aは]…「主観的な意見」と「客観的な事実」とを①区別することから始める必要があるのだ。」

①下線部の主語は、省略部分Aつまり、「争っている者たち」と対比される語である。さかのぼってAを探す。

→「争っている本人たちだけでなく、…第三者も納得する判断が[Aに]求められる。」

→「[Aの]示す判断は…」

つまり、Aは判断を示す人であり、裁判官を指す。A = 裁判官

1：正解

練習23

今の労働者の状況について書かれた文章である。

下線部を含む文を見る。対比に注目する。

・今の50代、60代=会社に守られて生きてきた=「[Aを]知らなくて済んだ世代」

・今の若者たち=自分たちで生活を守らなければならない=「[Aを]知らざるを得ない世代」

Aは何か、さかのぼって探す。

「自分たちの働き方のなかに「法律違反」があるかを知り、その救済手段を知る…」

つまり、会社での仕事に違法性がないか、そして、違法性がある場合はどうすればいいかを、若者は知っておく必要があるということである。

1：自分たち、つまり若者は貧しいとは書かれていない。

2：「NO!」と言える労働者になれないとは書かれていない。

3：人生設計をするとき、何をすべきかは書かれていない。

4：正解

練習24

テレビ局に寄せられる「視聴者の声」について書かれた文章である。

下線部の文の構造を見る。

[Aは][Bに対して]「①もっときちんとした服装を心がける」(と言った)

だれが、だれに対して言った言葉なのか、さかのぼってA、Bを探す。

「さっそく非難が殺到した。アナウンサーのいで立ち(=服装)がだらしがないというのだ。」とあるので、①下線部は視聴者がアナウンサーに対して言った非難の言葉だとわかる。

A = 視聴者 B = アナウンサー

つまり、①下線部は「視聴者の声」(第1段落)の例である。

2：正解

練習25

不^ふ幸^{こう}感^{かん}というものについて書^かかれた文章^{ぶんしょう}である。

下^か線^{せん}部^ぶを含^{ふく}む文^{ぶん}を見^みる。

「自分^{じぶん}が誰^{だれ}よりも不^ふ幸^{こう}に思^{おも}えてきて、周^{しゅう}圍^いの人^{ひと}が抱^{かか}えている痛^{いた}みには鈍^{どん}感^{かん}になり、①人^{にん}間^{げん}関^{かん}係^{けい}にも

悪^{あく}影^{えい}響^{きょう}を及^{およ}ぼしてしま^{しま}いかねませ^{せん}ん。」

何^{なに}をす^すると、自^じ分^{ぶん}が不^ふ幸^{こう}に思^{おも}えてくるのか。さか^{さか}のぼ^ぼつて探^{さが}す。

→「そうして自^じ分^{ぶん}の苦^く悩^うにばかりアンテナを向^むけていると、…なり、…失^うわれていく。」

→「「私^{わたし}ってかわいそう」という思^{おも}いにとらわれると、心^{こころ}のアンテナが内^{うち}向^むきになります。」

「私^{わたし}ってかわいそう」という思^{おも}いにとらわれる＝自^じ己^{これん}憐^{びん}憫^んにとらわれる

つまり、自^じ己^{これん}憐^{びん}憫^んにとらわれることが、人^{にん}間^{げん}関^{かん}係^{けい}に悪^{あく}影^{えい}響^{きょう}を及^{およ}ぼすのである。

1：「問^{もん}題^{だい}を認^{みと}めれば、自^じ尊^{そん}心^{しん}が傷^{きず}つきます」と書^かかれているが、人^{にん}間^{げん}関^{かん}係^{けい}へ^への影^{えい}響^{きょう}は書^かかれてい^いない。

2：不^ふ幸^{こう}の責^{せき}任^{にん}を他^た人^{にん}に押^おしつ^つけることは、第^{だい}2^だ段^{だん}落^{らく}の最^{さい}後^ごの文^{ぶん}の言^いい換^かえである。このこと^{こと}が人^{にん}間^{げん}関^{かん}係^{けい}に悪^{あく}影^{えい}響^{きょう}を及^{およ}ぼすとは書^かかれてい^いない。

3：自^じ分^{ぶん}の内^{ない}面^{めん}を隠^{かく}すとい^いうことは書^かかれてい^いない。

4：正^{せい}解^{かい}

練習26

小^{しょう}中^{ちゅう}学^{がく}校^{こう}の国^{こく}語^ごの教^{きょう}科^こ書^{しょ}を批^ひ判^{ぱん}して^{して}いる文^{ぶん}章^{しょう}である。

「ハンバーガー」は比^ひ喩^ゆである。何^{なん}の比^ひ喩^ゆな^なのか、対^{たい}比^ひ（「硬^{やわ}い」と「柔^{ちやう}らかい」）に注^{ちゅう}目^{もく}して読^よみ取^とる。

・「硬^{かた}くて栄^{えい}養^{よう}のある言^{こと}葉^は」＝難^{むづか}しくて、読^よむ力^{ちから}を鍛^{きた}える文^{ぶん}章^{しょう}

・「ファーストフードのよ^{やわ}うな柔^{やわ}らかいもの」＝「ハンバーガー」＝易^{やす}しくて、読^よむ力^{ちから}を鍛^{きた}えるこ^この^よで^よき^よな^よい^よ文^{ぶん}章^{しょう}

つまり、国^{こく}語^ご教^{きょう}科^こ書^{しょ}が易^{やす}しく幼^{よう}稚^ちな文^{ぶん}章^{しょう}ば^ばか^かり^りな^なので、こ^これ^れで^では^は子^こど^ども^もの読^よむ力^{ちから}が鍛^{きた}え^えら^られ^れな^ない、
と筆^ひ者^{しや}は批^ひ判^{ぱん}して^{して}いる^いる^るの^ので^である^る。

1：「ハンバーガー」は、アメリ^{ふん}カ^か文^{ぶん}化^かの比^ひ喩^ゆで^では^はな^ない。

2：「幼^{よう}稚^ちな文^{ぶん}章^{しょう}」は、子^こど^ども^もが書^かいた文^{ぶん}章^{しょう}とい^いう意^い味^みで^では^はな^ない。

3：グロ^かーバ^{まわ}ル^{こう}化^かに逆^{さか}行^{こう}して^{して}いる^いる^るこ^こは「ハンバーガー」の比^ひ喩^ゆと^とは関^{かん}係^{けい}が^がな^ない。

4：正^{せい}解^{かい}

練習27

管^{かん}理^りのあ^あり^り方^{かた}につ^ついて書^かかれた文^{ぶん}章^{しょう}である。

対^{たい}比^ひ（「…場^ばあ^い」と「…と^{ちう}ぎ」）に注^{ちゅう}目^{もく}して、下^か線^{せん}部^ぶを含^{ふく}む文^{ぶん}を見^みる。

・「本^{ほん}当^{とう}に管^{かん}理^りが^がい^いい加^か減^{げん}である場^ばあ^い合^あは[A^せが]責^せめ^めら^られ^れて^ても仕^{しか}方^{かた}が^がな^ない^いと思^{おも}い^いま^ます^すが^が」

・「…未知の問題であったりするときなどは①違います。」

つまり、①違います=Aが責められるのはおかしい、という意味である。

Aがだれか、さかのぼって探す。

「いまの日本社会では…管理者が徹底的に責められる風潮があります。」(1~2行目)

A=管理者

「①違います」=管理者が責められるのはおかしい

1: 正解

2: 被害者が責められるケースについては書かれていない。

3: 「違います」は「責められるのは仕方がない」の対比で、「危険の排除」の対比ではない。

4: 「違います」は「危険の管理」の対比ではない。

練習28

ある「一群の人々」について書かれた文章である。

下線部を含む文を見る。

「人々は、そのことが好きで…①小さな縦穴を深く掘り続けている、という点だけを共有している。」

「人々」と「そのこと」が何を指すか、さかのぼって探す。

「人々」=「どんなささいなことがらについてでも、それを愛し、そのことについて調べたり、試したりしている一群の人々」

「そのこと」=「ささいなことがら」

つまり、人々が共有している点は、あるささいなことがらについて、調べたり、試したりしていることである。

①下線部は比喩なので、この答えが比喩の言い換えになっているどうか、確かめる。

小さな縦穴を=ささいなことがらを

深く掘り続けている=深く調べたり、試したりし続けている

1: 数少ない仲間を探すことは、小さな縦穴を深く掘る、という比喩に合わない。

2: 正解

3: 情報を交換していることだけを、深く掘る、と言っているのではない。

4: 本当に穴を掘っているわけではない。

練習29

日本人と欧米人の脳のモード差について書かれた文章である。

下線部を含む文の構造を見る。

「同時通訳をしていると、スピーカーの①脳のモード差がモロに体感できること。」

下線部の「脳」はスピーカー(=話し手)の脳を指す。その前の文「日本人が欧米人に較べて、情報

を非論理的に羅列する傾向が強い」から、「差」は日本人と欧米人の差を指すことがわかる。日本人と欧米人の対比を見る。

・日本人：情報を非論理的に羅列する傾向が強い→通訳時に「記憶力が拒絶反応を起こす」=覚えにくい

・欧米人：論理的に話す→通訳時に「スルスルと容易に覚えられる」=覚えやすい

つまり、筆者が体感する「脳のモード差」とは、話し手の話し方が論理モード(=欧米人の傾向)か、非論理的な羅列モード(=日本人の傾向)か、という差を指す。

1：知識の試し方の差は、筆者が「脳のモード差」の要因と考えていることである。

2：正解

3：覚えやすさの差は、筆者がスピーカーの「脳のモード差」に気づいたきっかけである。

4：通訳者とスピーカーの差ではない。

練習30

「時効」という制度について書かれた文章である。

下線部を含む文を見る。

「①権利の上にねむる者」という[末弘先生の]言葉が妙に強く印象に残りました。」

①下線部がどのような人を指すか見る。

「権利の上に長くねむっている者」=金を返せと催促しない貸し手(=「気の弱い善人の貸し手」)

このような貸し手は「民法の保護に値しない」というのが末弘先生の言葉である。

筆者はこの話を「たんに自分は債権者であるという位置に安住していると、ついには債権を喪失する」と言い換えている。

つまり、「①権利の上にねむる者」とは、債権者であることに安心してしまい(=権利の上に)、金を返してもらおうための行動を何もしない(=ねむる)貸し手である。

1：借り手は権利を持つ者ではない。

2：「ネコババをきめこむ不心得者」は借り手を指す。

3：時効を知っているかどうかについては書かれていない。

4：正解

練習31

動物の構造や機能の発達について書かれた文章である。

下線部を含む文を見る。

「感覚器官、脳神経系の発達にしても、①おなじかんがえかたができるであろう。」

これより前の部分から、発達についての筆者の考えを読み取る。

「人間の社会をゆるぎないものにするために、音声言語が発達したという意味ではない。社会は結

果であり、目的ではなかった。」(第1段落)

「動物というものは、目的論的にすべて説明できるわけではない。」(第2段落)

「人間についても…ながい進化の歴史的結果であるというだけのことである。」(第2段落)

つまり、感覚器官や脳神経系も、結果として今のようになっているだけで、今のようになろうと目指して発達してきたわけではないというのが、下線部の「かんがえかた」である。

- 1：なんらかの目的に到達しようとはしていない。
- 2：環境への適応を目的とはしていない。
- 3：正解
- 4：長い時間が必要だとは書かれていない。

練習32

学者と研究について書かれた文章である。

理由の表現はないので、文章全体から①学者は馬鹿でなければならない理由を読み取る。

頭が良い人は先にある困難さや障害が見えてしまうので、成果が出ないと予測した研究はやらない。しかし、

「行き詰まりになっているはずの道でも」=行き詰まってしまうと予測できる研究でも

「ふいと右へ行く道を発見したりする」=思いがけない解決方法が見つかる

つまり、研究は実際にやってみないと成果が出るかどうかかわからない。行き詰まりを予測して研究を避ける者は、良い学者ではないということである。

- 1：研究のことしか考えていない、とは書かれていない。
- 2：克服できないとは書かれていない。
- 3：正解(予測力=「前途にある困難さや障害や行き詰まりが見えてしまう」こと)
- 4：「行き詰まりが見えてしまう」とは、研究の前に「行き詰まり」を予測するということである。研究をして行き詰まるとは書かれていない。

練習33

疲労について書かれた文章である。

理由を示す表現に注目し、①精神の疲労に主役が交代した理由を探す。

「そのために精神的な疲労が主役としてスポットライトをあびるようになってきた。」

「その」の指す内容をさかのぼって探す。

「その」=「高度に機械化された社会では、…労働条件におかれている。」

つまり、機械化によって単純で動きのない作業(=筋肉を使わない労働)が中心になったため、筋肉の疲労が減り、精神の疲労が増えたのである。

- 1：善玉疲労と悪玉疲労のどちらが多いかはわからない。(精神的な疲労が善玉疲労だとは書かれ

ていない。)

2: 悪玉疲労から逃れる「方策として生まれた」と書かれているが、実際に逃れられたとは書かれていない。

3: 正解

4: 「交代した」と言っているので、筋肉疲労に加えて、とは言えない。

練習34

植物細胞と動物細胞について書かれた文章である。

①このことの意味は大きい指示語「このこと」が何を指すか探す。

「このこと」=植物細胞は細胞壁で囲まれていること

細胞壁で囲まれていることが重要である理由を探す。

植物細胞と動物細胞の対比に注目。

・植物細胞: 堅い細胞壁=細胞を積み上げられる=大きく成長できる

・動物細胞: 弱くて薄い原形質膜の外壁=積み上げられない=骨がないと成長できない

つまり、堅い細胞壁のおかげで、植物は骨がなくても大きく成長できるのである。

1: 細胞壁が生まれた理由は書かれていない。

2: 正解

3: 堅い細胞がやわらかくなるとは書かれていない。

4: 動物には細胞壁はない。

練習35

筆者が驚かされた白鳥について書かれた文章である。

①白鳥におどろかされた理由を、文章全体から読み取る。

・実際の白鳥: 品がなく餌を催促する、乱暴な行動。鋭い目つき。たくましい下半身。

・白鳥の一般的なイメージ: 美しく、優雅。

つまり、筆者はこの差(=白鳥の二重人格)に驚いたのである。

1: 正解

2: 音もなく泳ぐことにおどろいたのではない。

3: 上陸してきたことだけが理由ではない。

4: 餌をねだったことだけが理由ではない。

練習36

機会の平等性の二つの原則について書かれた文章である。

下線部を含む文を見て、「機会の平等性」の「二つの原則」が何を指すか探す。

「全員参加の原則」=だれでも候補者となる機会が与えられる

「非差別の原則」=選抜の際、個人の資質で差別されない

個人の資質とは「男性か女性か、若いかな年寄りか」など、努力では変えられない条件である。

①機会の平等性が与えられていない例が問われているので、二つの原則に反しているものを選ぶ。

- 1: 営業成績は個人の資質ではないので、原則に反していない。
- 2: 親の所得にかかわらず、候補者となる機会が与えられるので、原則に反していない。
- 3: 入学試験の成績は個人の資質による差別とは言えないので、原則に反していない。
- 4: 正解(「日本国籍を持っていない人が受験できない」のは全員参加の原則に反する。)

練習37

言葉の機能について書かれた文章である。

①嘘をつくことの意味をつかむ。

「言葉の機能とは、ある意味で、①嘘をつくことにあると言ってもいい。」

その機能を説明している部分を探す。

「実際には存在しないものも、その名を言えば、それは存在する物として通用する」

「水をください」と言うために、実際の水は必要ない」

「実際にはありもしない話も、うまく語れば、まるで本当であるかのように人には読まれる」

つまり、「実際には存在しない」ものを「語る」ことが、「嘘をつく」ことである。

- 1: その犬を見ながら話しているのだから、犬は目の前に存在している。
- 2: 正解(自分が飼いたい犬は、そこには存在しないものである。)
- 3: 育てている犬は実際に存在している。
- 4: 本の言葉をそのまま書き写すことは「語る」ことではない。

練習38

思考の内化と外化について書かれた文章である。

「内化」と「外化」の対比に注目して、①外化の意味をつかむ。

・「内化」=「知覚や運動がイメージとして心の中で行われるようになること」

例: ソロバンの暗算、将棋や囲碁の盤面の再現

数学の答えを、図も式も書かずにいきなり出すなど

・「外化」=「心の中で行っている思考活動を、文字、記号、図などの形で外に出すこと」

つまり、①外化とは、頭の中で行っている活動を、外から確認できる形にすることである。

- 1: 「外化」では、思考するのは自分である。コンピューターを使って数値を出す場合、自分は思考していない。
- 2: 箸を持つという行動は、頭の中で行う活動ではない。

- 3：正解(文章を解釈するという思考の過程を、線や文字を使って形にしている。)
- 4：頭の中でイメージしているフォームは、外から確認できない。

練習39

「つきましては」の後を見る。

「つきましては、誠に不本意ながら…価格を改定をさせていただくことになりました。」

- 1：正解
- 2：価格の改定はすでに決まっており、今値上げしないよう努力しているのではない。
- 3：原材料が高騰したことは、状況説明の部分である。
- 4：品質の維持とサービスの向上は、終わりのあいさつとして書かれている。

練習40

「さて」の後、「お願い申し上げます」の前を見る。

「さて、…請求書ですが、…型番「DSK-BRN003」とすべきところを「DSK-BLK003」としてしまいました。…心よりお詫び申し上げます。正しい請求書を同封いたしましたので…ご確認のほどお願い申し上げます。」

- 1：感謝とご機嫌伺いはあいさつである。
- 2：古い請求書を送り返すようには書かれていない。
- 3：正解
- 4：間違っていたのは、納品した商品の型番ではなく、請求書に書いてある型番である。

練習41

「この度」の後を見る。

「この度、…山坂酒井線を廃止させていただくことになりました。」

- 1：利用に対する感謝は、単なるあいさつである。
- 2：正解
- 3：変更とは書かれていない。
- 4：乗車券払い戻し手数料のことは、この文章の主な目的ではない。

練習42

「【応募】」を見る。

- 1：8月27日に、書類を持って面接に行くのではない。
- 2：8月27日までにメールでアポイントを取るのではない。指定された日に書類を持って面接に行くのではない。

3: 正解

4: 書類は郵送するのではない。

練習 43

「応募方法」「■応募期間」を見る。

1: 正解

2: 11月1日までではない。会員登録は必要である。

3: 登録料はかからない。

4: 買い物はしなくてもよい。会員登録は応募の前にしなければならない。

練習 44

「尚、チケット代金の払い戻しを希望されるお客様は」の後を見る。

1: 正解

2: チケット郵送先は(株)ANTONIOである。

3: チケット送付は郵便で行う。

4: 郵便代金は口座に振り込まれる。

練習 45

「【受付期間】」「【受付場所】」「【注意事項】」を見る。

1: 品物を送ってはいけない。

2: 正解

3: 取りに来てくれない。

4: 18日は受付期間ではない。

練習 46

キーワード「コピー用紙」を探す。

「リサイクルできる古紙(コピー用紙、シュレッダー紙ごみ)であることを確認の上、指定の収集袋に必ず部署名、電話番号を明記して、…出してください。」

1: 東ねて、ヒモで縛るのではない。

2: 正解

3: 所属部署だけでなく電話番号も必要である。ヒモで縛る必要はない。

4: 新聞紙、広告などは収集袋に入れてはいけない。

練習47

順番を示す番号、太い字、下線に注目する。

1: 正解

2: 洗剤と柔軟剤は自動的に投入される。乾燥延長のための100円は乾燥が始まってから入れる。

3: 乾燥延長のための100円は乾燥が始まってから入れる。

4: ドラム洗淨は、洗濯物を入れる前に行く。

練習48

「※豆ご飯を作るには」を見る。「水を入れるとき」「15分加熱した後」を手がかりに、本文2、3、

6、7の普通のご飯の炊き方と、豆ご飯の作り方の違いがどこにあるか探す。

1: 2の手順は同じである。6も同じである。豆を入れるのは、7の容器を取り出した後である。

2: 2の手順は同じである。

3: 6は同じである。豆を入れるのは、7の容器を取り出した後である。

4: 正解

練習49

1000円の商品券5枚で3800円の買い物をするには、3枚使って800円の差額を支払うか、4枚使って200円のおつりをもらう必要がある。キーワード「おつり」「差額」を探す。(つり銭=おつり)

1: つり銭は返すことができないと書かれている。

2: つり銭は返すことができないと書かれている。

3: 正解

4: ABCカードのポイントで差額を払えるとは書かれていない。

練習50

選択肢の中から条件に合うものを探す。

上映開始時間、上映時間、駅から映画館までの行き帰りに必要な時間を見る。

ラブストーリーかコメディイを探す。

☆の数がより多いものを選ぶ。

1: 条件は合うが、3より☆が少ない。

2: ラブストーリー、コメディイではない。

3: 正解

4: 最初から最後まで見ると、待ち合わせの時間に遅れる。

練習51

友人とは何かということについて書かれた文章である。

問1

①友人とはなんぞや(=友人とは何だろうか)という質問に対する河合隼雄さんの答えは「夜中の十二時に、自動車のトランクに死体をいれて持ってきて、どうしようかと言ったとき、黙って話に乗ってくれる人」である。

つまり、たとえ異常な状況でも、責めたり逃げたりせず、「黙って話に乗ってくれる(=余計なこととはいわずに、話を聞いて協力してくれる)」人が友人である。

1: 遊びにきてくれるかどうかは書かれていない。

2: 正解

3: 新しい刺激を与えるとは書かれていない。「刺激的」であるというのは、河合隼雄さんの話に対する筆者の感想である。

4: 死体は単なる例。勇気を出すことではなく、どんな状況でも「話に乗ってくれる」ことが大切である。

問2

「あげくに②トイレで食べる者もいる」とあるので、②トイレで食べるのは、その前の「周囲の目が気になって、学食で一人で食べられない」の極端な例である。

周囲の目が気になるのは、「友達がいない寂しさより、いない恥ずかしさに耐えられない」「「暗いやつ」と見られたくない」からである。

つまり、「一人で食べているのを人に見られると、「友達がいない」ことが人に知られてしまい、「暗いやつ」だと思われるかもしれない。それを避けるため、だれにも見られずに済む「トイレ」で食べるのである。

1: 正解

2: 自分の食べる物、食べる姿に自信がないとは書かれていない。

3: 寂しさより、友達がいないことを人に知られる「恥ずかしさ」のほうの問題だと書かれている。

4: 友達に嫌われてしまうからではない。トイレで食べる人に、友達はいい。

問3

(筆者は)③造花を飾って安らぐ心の内が…気にかかる。」

「心の内」とは、「携帯電話に何百人も「友達」を登録して、精神安定剤にする学生」の心の内である。

「造花」が何の比喩であるか考える。

「友情とは成長の遅い植物のようなもの」との対比から、「造花(=植物に見えるが、全く成長しな

い偽物の花)は、友情に見えるが、本当の友情にはならないものの比喩だとわかる。

つまり、筆者は、携帯電話に何百人も登録している「友達」は、本当の友人ではないと考えているのである。

1: 正解

2: 長く美しい関係が続けられる、という良い意味では使われていない。

3: 「造花」は「友達」の比喩である。

4: 「造花」は「友達」の比喩である。

練習 52

日本の時計や時間制度の歴史について書かれた文章である。

問 1

「この天智天皇の水時計は「①漏刻」と呼ばれ、四角い箱を階段状に重ねたような構造をしていたものと考えられています。」

つまり、「①漏刻」=天智天皇の水時計=四角い箱を階段状に重ねたような構造を持つ時計

天智天皇の水時計とはどんな時計か、さかのぼって探す。

天智天皇の水時計=天智天皇が飛鳥において作らせた時計=日本で本格的に作られた最初の時計

1: 正解

2: 鐘や太鼓は、水時計でわかった時刻を民衆に知らせるときに使われた。時計に付いていたわけではない。

3: 時計の構造が階段に似ていたのであって、時計を階段の上に並べたのではない。

4: 世界で初めて作られたかどうかは書かれていない。

問 2

「現在、この日は「②時の記念日」とされています。」

「この日」=太陽暦6月10日=太陰暦4月25日=漏刻が設置された日

1: 記録が発見された日がいづであるかは書かれていない。

2: 正解

3: 民衆に告げられたのは時刻。漏刻を作らせたことが告げられたとは書かれていない。

4: 太陰暦から太陽暦に変わった日がいづであるかは書かれていない。

問 3

「つまり、③いつときの長さは、春分の日と秋分の日、現代の時間の単位でいう2時間にあたりませんが、夏至に近ければ昼のいつときは2時間より長く、夜のいつときは2時間よりも短くなります。冬至に近ければ、その逆になります。」

春分の日と秋分の日＝昼と夜の長さが同じ＝昼も夜も「いっとき」は2時間

夏至に近い日＝昼のほうが長い＝昼の「いっとき」は、2時間より長い

冬至に近い日＝昼のほうが短い＝昼の「いっとき」は、2時間より短い

1日の長さは変わらないので、

夏の「いっとき」：昼は2時間より長く、夜は2時間より短い

冬の「いっとき」：昼は2時間より短く、夜は2時間より長い となる。

1：冬は、夏より昼の「いっとき」が短い。

2：正解

3：「いっとき」の長さは、昼と夜で変わる。

4：「いっとき」の長さは、季節によって変化する。

練習53

子どもの虐待と親の役割について書かれた文章である。

問1

「なすすべはあるはずなのに、(なすすべは)①機能していない。」

ここでの「なすすべ(=する方法)」は、近所の人が通報する、児童相談所が子どもを預かるなどの虐待から子どもを守る方法である。

つまり、「機能していない」は虐待から子どもを守る方法がうまく働いていないということである。

2：正解

問2

「②社会が子どもを守る」などというが、それは美しい話で、子どもの生殺与奪の権は最終的には親が握っている、と私は考える。」

筆者は「それ」(=「社会が子どもを守る」ということ)は「美しい話」(=だれもがすばらしいと感じる話)だと言っているが、しかし最終的に子どもをどうするかは、「親」が決めるのだと述べている。

つまり、筆者は「社会が子どもを守る」というのは、理想論であって、現実はそうではないと考えているのである。

1：美しい心を育てるとは書かれていない。

2：言葉としてはすばらしいが、実際には難しいと考えている。

3：正解

4：当然の話だとは書かれていない。

問3

「そういう意味で、③親になるエリート教育が求められるのである。」

「エリート」=「人の命を預かる」人(第3段落)

「そういう意味で」=人の命を預かった親には「他人に言えないことを黙って背負う忍耐」や「汚れ役を買って出る覚悟」が必要になるという意味で

親は子どもの命を預かる「エリート」であるが、虐待する親は、その「重い立場」に気づいていない。そのため、筆者は人の命を預かることの重大さを親に教えることが必要だと述べている。

- 1：エリートとは社会の成功者ではない。また子どもではなく親がエリートになるための教育である。
- 2：子どもの育て方の教育ではない。
- 3：豊かで愛情あふれる生活が必要であることを教えるのではない。
- 4：正解

練習54

高次脳機能障害になった人が、「脳が壊れてもちゃんと生きていく」ために必要なことについて述べた文章である。

問1

「そのため、昔とった杵柄にしろ、叩けば出るほこりにしろ、①その人の歴史が浮かび上がってくる」というのである。」

「その人」=高次脳機能障害を持つ人

「昔とった杵柄にしろ、叩けば出るほこりにしろ」=過去に身につけた技能も、弱点も

「①その人の歴史」の言い換えに注目する。

「その人の歴史とは、言い換えるなら、その人の積んできた経験だ」

つまり「その人の歴史」とは、高次脳機能障害を持つ人が、過去に積んできたすべての経験である。

- 1：正解
- 2：障害に至った経緯だけではない。
- 3：危機を乗り越えようとするのは脳である。また、歴史とは経験のことで、何かに書かれた記録ではない。
- 4：危機に至るまでの過程だけではない。

問2

下線部を含む文の省略部分を探す。

「[Aが]それをのちの人生で、必要に応じてうまく引き出しながら②使ってくれているのである。」

何が=A、何を=「それ」を探す。

「それ」=しまいこまれ、長期間ストックされた経験=記憶として保存された経験

この経験を保存しているのは「脳」である。

A = 脳

- 1 : 経験の記憶は、幸せな思い出だけではない。
- 2 : 正解
- 3 : 障害者の周囲の人々については書かれていない。
- 4 : 障害者の周囲の人々については書かれていない。

問3

「なんのために勉強するの」→ 答え「脳が壊れてもちゃんと生きていくためよ」

この答えの意味を、それ以降の文章から読み取る。

高次脳機能障害で脳が壊れても、過去の経験が記憶されていれば、脳は残された正常な機能を使って、危機を乗り越えてくれる。このためには脳に多くの記憶があることが重要である。

つまり、万一、脳が壊れても、残った部分で機能を補って生きていけるように、できるだけ多くの経験を積んでおくほうがいいのだ、というのがこの文章の内容である。

1 : 正解

- 2 : 経験は勉強に限らない。また、子どもに対してだけ言っているのではない。
- 3 : 高次脳機能障害にならないように、とは書かれていない。
- 4 : 人生の選択や決断をするときは、脳が自然に経験の記憶を引き出すのである。自分の経験を振り返って考えるべきだとは書かれていない。

練習55

母親が、幼い息子の行動について書いた文章である。

問1

「えさをまく」に関する息子の行動と発言に注目する。

小さい折り紙をぱぱぱっとまくことを「えさまいてるの!」、えさについては、「えさは、まくもの!」と言っている。

ここから、息子は「えさをまく」という表現全体を「まく=小さい物を投げ散らす」と捉えていることがわかる。

1 : 正解

- 2 : 息子が「まく」ものだと思っているのは、動物のえさだけではない。
- 3 : 単に折り紙で遊ぶことではない。
- 4 : 敵を攻撃することとは思っていない。

問2

省略されている部分を探す。

「^{にんじや}忍者の^{ばんぐみ}番組をテレビで見ていたら、[aが]^{おな}同じように^{なに}何かを^なぱぱぱつとやっていた。」

忍者の番組の中で「ぱぱぱつと」やるのは^{にんじや}忍者。a=^{にんじや}忍者

[イルカに何かをぱぱぱつとやるのと]^{おな}同じように[^{にんじや}忍者が]^{なに}何かをぱぱぱつとやる＝「えさをまいて
いる！」

イルカにえさをまく^{どうさ}動作と、^{にんじや}忍者の^{どうさ}動作(=^{しゅりけん}手裏剣を^な投げる)を^{おな}同じと^{かんが}考えているのは^{むすこ}息子である。

b=^{むすこ}息子

4：^{せいかい}正解

問3

^{りゆう}理由を^と問う^{もんだい}問題。

「たまたま^{にんじや}忍者だったから…^{りかい}理解していないということがわかった…」

しかし、もしイルカのぬいぐるみに対して^{たい}だったら、^{むすこ}息子が^{ごかい}誤解していることがわからなかっただ
ろう、と^の述べている。

つまり、ぬいぐるみでも、イルカに「えさをまく」ことは^い違和感がないが、「えさをまく^{にんじや}忍者」はイ
メージできないので、^きおかしいと^の気づいたのである。

1：^{せいかい}正解

2：^{じぶん}自分が^{どうぶつ}動物飼育員になった^かつもりとは書かれていない。

3：^{むすこ}息子は、^{じっさい}実際には、イルカのぬいぐるみに^{こうい}まく行為をしていない。

4：^{こうえん}公園で^{おじいさん}おじいさんが^{はと}鳩にえさをまいているのを見て、「えさをまいている」と^い言ったのは^{ひっしや}筆者。

問4

^{かくだんらく}各段落の^{ないよう}内容をつかむ。

第1～7段落：^{だい}息子が「えさをまく」という^{ひょうげん}表現を^{ごかい}誤解しているというエピソード。

最後の段落：^{さいご}子どもの^{だんらく}言葉は「^{ことば}意味が^い対応して^{たいおう}いないことも^{おお}多い」。

「^{さいしょ}最初にその^{ことば}言葉と^{であ}出会った^{じょうきょう}状況」が^こ子どもの^{りかい}理解に^{おお}大きく^{えいさう}影響する。

つまり、^{むすこ}息子の^{ごかい}誤解に^き気づいて、^{ひっしや}筆者は^こ子どもが^{ことば}言葉というものを^{りかい}どう理解しているかを知ったの
である。

1：^{にんじや}忍者を^{まちが}間違っ^{りかい}て理解しているとは^か書かれていない。

2：^こ子どもの^{にんじやあそ}忍者遊びが^なテーマではない。^{にんじやあそ}忍者遊びの^{つか}ときに^{ことば}使われていた言葉が^{ことば}テーマである。

3：^こ子どもは^{がくしゅう}学習しているが、そこに^{まちが}間違いがあることがこの^{ぶんしやう}文章の^なテーマである。

4：^{せいかい}正解

練習56

^{ことば}言葉の^{ごよう}誤用について^か書かれた^{ぶんしやう}文章である。

問1

「それが基準になり、聞き慣れない言葉や表現を耳にする」と、「①おかしい」と感じる。

「それ」＝「すり込み」(＝自分が育つ中で身につけた言葉)

つまり、自分が育つ中で身につけた言葉とずれた言葉を聞いたとき、「おかしい」と感じる。

1：正解

2：「それ」は、社会的に当然と思われるものではない。

3：子どもっぽさについては書かれていない。

4：「すり込み」表現と似た言葉ではなく、違う言葉を聞いたときである。

問2

第3～4段落を見て内容を読み取る。漢字の対比(「障」と「触」)に注目する。

・「耳ざわり」は本来「耳障り」で否定的な語だった。

・「耳触り」という肯定的な語として使われるようになった。

「手触り」「舌触り」という(肯定的な)語があるので、「耳触り」もあると、勘違いされたからである。

1：「舌触り」「耳触り」は肯定的な語である。

2：「目障り」「耳障り」は否定的な語である。

3：勘違いから使うようになったのは「耳障り」ではなく「耳触り」である。

4：正解

問3

「ところが…などと言われると、状況によっては、③そんなこと知るか(＝そんなことを知っているはずがない)、押しつけがましいぞ、といった抵抗感が生じます。」

下線部の「そんなこと」は、「…などと言われる」話の内容、つまり「私って、4月生まれじゃないですか」「遠距離恋愛じゃないですか」を指す。これを知っているはずがない状況とは、相手が自分と親しくない場合である。

1：「私って、……じゃないですか」は家族や友人の言葉ではない。また、「そんなこと知るか」は「知っている」という意味ではない。

2：正解

3：相手が「4月生まれ」と知っていることは恥ずかしいことではない。

4：同じことをもう一度話しているという状況ではない。

問4

各段落の内容をつかむ。

第1～2段落：人は「聞き慣れない言葉や表現」を「乱れている(＝誤用)」と感じる。「誤用」から

「正用」へと変化するケースも珍しくない。

第3～8段落：「耳ざわり」(誤用が正用に近づいている例)

「私って、○○じゃないですか」「すでにご承知のように」

(世代間で許容にズレがある例)

第9段落：世代間のズレが、ある言葉の使い方を「乱れている」と感じさせる。

つまり、筆者は、言葉は変化するもので、ある世代には「誤用」と感じられたものも、時がたてば「正用」になることがある、という事実を述べている。

- 1：世代間で異なるという事実は述べているが、これを知るべきだと書かれていない。
- 2：乱れていると感じたとき、どう行動したらいいかは書かれていない。
- 3：誤用もいずれ「正用へと向かうかもしれ」ないので、正用になりにくいとは言えない。
- 4：正解

練習57

「世界」と「宇宙」という言葉について書かれた文章である。

問1

①世界ということばを説明している部分を探す。

仏教によると「世=時間の一くぎり」「界=一定の空間のこと」(第2段落)

「つまり世界とは、時間と空間を一まとめにした範囲をさすことばであった」(第3段落)

- 1：地球上の地域全体を表すのは「みんな考えている」ことだが、本来の意味ではない。
- 2：時間の一くぎりを表すのは「世界」ではなく「世」である。
- 3：時間と空間を一まとめにした範囲を表すと考えるのは仏教で、西洋の考えではない。
- 4：正解

問2

「どうもわれわれは②世界や宇宙から時間を追い出してしまっているが、

そもそも人間をとりまく空間は、時間も重ね合わせたものだと考える方が正しい。」

「②世界や宇宙から時間を追い出す考え方と「空間は、時間も重ね合わせたものだ」という考え方が対比されている。

続く文からこの対比の言い換えを読み取る。

・②世界や宇宙から時間を追い出す=時間と空間は対立し合う=教室で教えられてきたこと=近代

ヨーロッパの考え方

・空間と時間を重ね合わせて考える=二つを一体のものと認識する=アジアの考え方

つまり、今の学校では近代ヨーロッパの考え方しか教えていないため、「われわれ (= 今の日本人)」はアジアの考え方を知らないのである。

1：正解

2：アジアの考え方では、空間と時間を一体のものと認識している。

3：日本独自の考え方については書かれていない。

4：広い視野を持つ新しい考え方については書かれていない。

問3

「つまり千七百年も前から日本は、インドや中国とまったく同じように時間と空間をひと組のものと考え、③それぞれが、相手なくしては存在しないと思っていたのである。」

「相手なくしては存在しない」もの＝「ひと組のもの」＝時間と空間

つまり、③それぞれは、「時間と空間」を指す。

4：正解

問4

段落ごとに本文の内容をまとめる。

第1～8段落：「世界」「宇宙」ということばは、アジアでは本来、時間と空間をひと範囲を指す。時間と空間を対立したものと見るのは近代ヨーロッパの考えである。

第9～10段落：日本でも、昔から時間と空間をひと組のものと考えていた。

第11～12段落：「世界的」「宇宙的」に考えようと言うのなら、過去への観察や未来への希望(=時間)を視野に入れることが必要である。←筆者の主張

1：ことばの意味の違いを多くの人に知ってほしいとは書かれていない。

2：アジアとヨーロッパの考え方の差を意識すべきだとは書かれていない。

3：正解

4：世界的、宇宙的ということばをもっと使ったほうがいいとは書かれていない。

練習58

大人から見た子どもの異質性について書かれた文章である。

問1

子どもの異質性を「垂直」に見るか、「水平」に見るか、の対比に注目する。

・「水平」に対峙させる＝「文化を異にする者」として見る

・「垂直」に置き並べる＝「文化を先取る者」として見る

つまり、「垂直に置き並べる」とは、子どもを、次の時代(=未来)の文化に属する者と捉えて、異質性を考えるということである。

1：正解(どちらの文化が新しいか=次の時代の文化に属するか、今の時代の文化に属するか)

問2

言い換えと理由を示す表現に注目して、下線部に続く第3段落から理由を読み取る。

第3段落では「前者」が「大人たちに許容されていた時代」の言い換えになっているので、その部分に注目する。

「前者の場合、…次の時代が予測可能であるため、大人たちは…許容し得たのであろう」とはつきり理由が示されている。変化の方向がはっきりしていて、しかも変化スピードが遅い場合は、大人にも次の時代がどうなるかという予測ができる。だから、次の時代を「先取る」子どもの言動が理解しやすく、許容しやすいのである。

- 1：「許容されていた時代」の変化の方向は不明確ではなく、明確である。
- 2：正解
- 3：コミュニケーションについては書かれていない。
- 4：差異には気づいている。その差異を許容するかどうかが問題である。

問3

「時々刻々、変化し続けるこの時代が、…「子ども」たちと、…「大人」たちと、この両者の共存を…
③困難にしている」

変化し続けるこの時代が、子どもと大人の共存を困難にしているのである。

- 4：正解

問4

「大人」「子ども」の対比と、「許容されていた時代」「許容されていない時代」の対比に注目して全体をまとめる。

第1段落： 「大人」=今の文化を生きるもの、「子ども」=文化を「先取る」もの

第2～3段落： 変化が緩やかな時代=大人が子どもの言動を許容しやすい時代

変化が急激な時代=大人が子どもの言動に不安を感じ、許容できない時代

第4段落： いま、大人と子どもの関係が非常に難しくなっているのは、急激すぎる時代の変化に大人がついていけないことが原因であろう。

- 1：許容するべきだとは書かれていない。
- 2：大人の文化に反発している証拠だとは書かれていない。
- 3：正解
- 4：しかたがないとは書かれていない。

練習59

携帯電話を買ったり使ったりすることの意味について書かれた文章である。

問1

「①携帯が脳味噌の一部になってしまったんじゃないかというくらい、あらゆることに携帯を使っている。」

①下線部は「あらゆることに携帯を使っている」様子を表している。

あらゆることに携帯を使う＝「と話すところだけど、今の子は携帯で撮って送信する(第5段落)」

「道に迷っても、誰かに聞かずに、携帯のインターネットで調べる(第6段落)」「横断歩道を渡って

いるときも、…ときですら、携帯電話にかじりついている(第7段落)」

これはコミュニケーションや判断を、自分の頭を使う代わりに携帯電話にさせている例である。

1: 正解

2: 携帯電話の機能の使い方がわからないのではない。

3: 携帯電話を持っていないと落ち着かないとは書かれていない。

4: 携帯電話を使っているのであって、携帯電話のことを考えているのではない。

問2

「言葉を発するたびに漏れている[Aの]息が、[Bの目に] ②札東に見えてるんじゃないか。」

「言葉を発する」とは、携帯で話すことである。A=携帯を使っている人間

だれ(B)の目に札東に見えるのか、さかのぼって探す。

→「…とにかく携帯を使っている人間を見かけるたびに、[Bは]ほくそ笑んでいるに違いない。」

→「そしてそのたびに、どこかの誰か(=B)のところに、世界中から金が集まっていく。その誰か

(=B)は、笑いが止まらないはずだ。」

→「誰かが誰かと話すたびに、個人の懐から電話会社へと金が流れているのだ。」(第2段落)

B=電話会社

3: 正解

問3

③牧場に囲われて、シーズンごとに毛を刈られる羊が何の比喻かを読み取る。

「牧場」=携帯電話のある環境

「シーズン」=携帯料金の支払い時期

「毛を刈られる」=お金を取られる、つまり自分の持っているものを奪われる

「羊」=人間

つまり、③下線部は、携帯を使って快適な生活をしているつもりで、実は無駄なお金を払わされている人間のことである。

1: 安全な環境を買おうという話は書かれていない。

2: 毛を刈られることは、身ぎれいにしてもらおうという意味ではない。

3 : 「牧場に囲われて」は世間知らずだという意味ではない。

4 : 正解

問4

段落ごとの内容をまとめる。

第1～3段落：携帯電話を使うコミュニケーションには常に金がかかる。

第4～9段落：携帯電話が便利になったとは金を集める方法が巧妙になったということ。

第10～13段落：人々は無駄なコミュニケーションに金を払わされていると気づいていない。

第14～15段落：以上のことに目覚める若者がいない。目覚めさせるよう教育したほうがいい。

1 : 携帯電話の機能を十分に使いこなしていないことをもっていないとは言っていない。

2 : 正解

3 : 犯罪にまで巻き込まれる危険性があるとは書かれていない。

4 : 買う必要があるコミュニケーションかどうか選別すべきであるとは言っていない。

練習60

A B Cとも、インターネットの掲示板に書かれた文章である。ポットに対する評価が書かれている。

問1

選択肢1～4の情報が、A B Cにあるかどうか見る。

1 : Aにしか書かれていない。

2 : 正解 (A「お湯もびっくりするぐらい早く沸くし、値段もお手頃だし」、B「値段につられて」「お湯を沸かす時間が短くて」、C「お湯が沸くまでの時間は2～3分で、あつという間」「最大の特徴は価格が安いこと」)

3 : Cにしか書かれていない。

4 : 内部の量が確認できることは、Cにしか書かれていない。大きさがちょうどいいとは書かれていない。

問2

A B Cを見て、ポットの「欠点」を探す。

A : 欠点については書かれていない。

B : 「使い始めてからしばらく」は「プラスチックのにおい」がする。

C : 「プラスチック臭が少し」ある。「注ぎ口にフタがなく、誤って転倒させたら大やけどをするおそれ」がある。

1 : 安っぽく見えるとは書かれていない。

- 2：電気代がかかるとは書かれていない。消したことがわかりにくいとは書かれていない。
- 3：Cにはポットを倒すと危ないと書かれているが、使い方が難しいとは書かれていない。
- 4：正解

問3

ABCのポットについての評価(満足しているか)を比べる。

A：満足していると述べている。

B：とてもいいと思ったと述べている。ただしにおいや味に敏感な人にはすすめていない。

C：第1段落に書かれていることは、すべて満足している点である。

第2段落には、小さな子どもがいる人、大人数で使う人にはすすめないと書かれている。

1：Bは満足している。

2：Cは満足している。

3：正解

4：Aは問題点を指摘していない。AとBはメーカーへの改善は特に望んでいない。

練習61

Aは、ホウカイさんが書いたメールである。件名「忘年会の件」。マリアさんと高橋さん宛てである。

Bは、高橋さんが書いた、Aに対する返信メールである。マリアさんとホウカイさん宛てである。

問1

ABから、「桃の花」の情報を探し、それが「候補となる理由」かどうか見る。

ホウカイ(A)：「友達がアルバイトをしている店があります。

「桃の花」という店で、1割引きにしてくれるそうです。」

1：ホウカイさんが実際に行ったかどうか、おいしかったかどうかは書かれていない。

2：高橋さんの友達ではない。

3：正解

4：ホウカイさんがすすめている。高橋さんがすすめているのではない。

問2

ABから、マリアさんがすることを探す。

ホウカイ(A)：「マリアさん、以前にお貸しした『冬のソナチネ』のDVDを忘年会の日に持って来ていただけますか。」

1：店を予約するのはホウカイさん(A)。

2：店を予約するのはホウカイさん(A)。

3：コンサートの切符は高橋さんがくれる(B)。

4：正解(AのP.S.(=追伸))

問3

ABの情報を合わせて、3人全員の都合のいい日を読み取る。

ホウカイ(A)：23日以降はいい、28日は都合が悪い(会社の忘年会)

高橋(B)：24日～27日は都合が悪い

マリア(B)：30日から都合が悪い(スキー)

全員都合がいいのは、23日と29日

1：両日ともホウカイさんが参加できない(A)。

2：22日はホウカイさんが参加できず(A)、30日はマリアさんが参加できない(B)。

3：24日は高橋さんが参加できない(B)。

4：正解

練習62

ABとも、新聞の投書欄に載った「現在の若者」に関する文章である。

問1

選択肢1～4の情報が、ABにあるかどうか見る。

1：Aにしか書かれていない。

2：どちらにも書かれていない(Aはインターネットに言及しているが、普及率は書かれていない)。

3：正解

4：どちらにも書かれていない(Aは経済の悪化に言及しているが、理由は述べていない)。

問2

ABから「若者の海外旅行離れ」の原因を探し、それを比べる。

A：「…経済の低迷のせいもあるが、最も大きな要因はITの普及にあるのではないか。」

B：「…日本人はシンボルに消費することのむなしさを知ったのだ。」

1：Aは経済的な理由も認めているが、「最も大きな要因はITの普及」だと述べている。

Bは「シンボルに消費することのむなしさ」という心理的な側面を強調している。

2：正解

3：Bは、若者が無気力になっているとは述べていない。

4：Aは、若者にとって海外旅行は「めんどろで無駄なこと」だと述べているが、若者にめんどろなことを嫌う傾向があるとは述べていない。Bは、海外に憧れる気持ちについては述べていない。

問3

A Bの筆者の意見を探し、それを比べる。

A: 「若者の関心は「外」に向かなくなりつつある。だが、はたしてそれは健全な社会と言えるだろうか。」(いや、健全とは言えない: 反語) ←若者に対して批判的

B: 「車や海外旅行への関心の低さをことさらに取り上げ、若者の「外」への無関心さを大げさに嘆くような論調である。」 ←「若者への批判」に対して批判的

「これは「退化」ではなく、ある種の「成熟」であろうと私は思う。」 ←若者に対して肯定的

4: 正解

練習63

Aは契約書の一部、Bは契約書のチェックリスト、Cは賃貸契約に関する情報である。

問1

Bの①～⑧がAに書かれているかどうか探す。

①は第2条、③は第3条、④は第4条、⑧は第5条に書かれている。

2: 正解

問2

Aを見て「140,000円」の意味を探す。

第4条に140,000円は敷金であると書かれている。

CのQ1「敷金って何?」を見る。

「部屋の契約後、解約して引っ越すときまで貸主に預けておくお金」「家賃2か月分が一般的」「家賃の滞納、入居者負担で部屋の修理をするときに、ここから引かれますが、基本的には戻ってくるお金」

3: 正解

問3

Aの第6条「(解約)」

「甲又は乙が、本賃貸借契約を解約するときは、相手方に対し前もって解約の申し入れをしなければならぬ。」

甲=貸主=サクラ不動産

乙=借主=キム・スヨン

「乙(=キム・スヨン)が解約の申し入れをする場合には2か月前にしなければならない。」

1: 契約期間中であっても前もって貸主に申し出れば解約することができる。

2: 契約書に2か月前と書かれている。

3: 正解

4: 6か月前までに知らせなければならないのは、甲(=貸主)が解約する場合。

練習64

マンションの掲示板に貼られていた「消防設備点検のお知らせ」である。

問1

問い: 11月9日、用事で留守にする場合、どうしたらいいか。

選択肢: 必ず在宅? 電話して、伝える? 何も連絡しなくてもいい?

「*11月9日(水)の点検日当日お留守の場合」を見る。

「11月11日(金)9:00~16:30の間に再度点検にお伺いいたします。」

つまり、11月11日9:00~16:30に在宅できるなら、何も連絡しなくてもいい。

3: 正解

問2

問い: 11月9日から1週間留守にする。家を出るのは午後である。どうしたらいいか。

選択肢: いつまでに? 電話で連絡する? 管理センターに「変更ご希望票」を出す?

11月9日午前は在宅できる。11月11日と13日は不在である。

つまり、9日の午前を指定すればいい。

「時間帯」「変更」を本文から探す。

「*当日は、…、時間帯のご希望がございましたら、事前に「変更ご希望票」を管理センターまでご

提出ください。ご希望による点検時間帯は先着順に決めさせていただきます」

先着順=早い人から決めていく方法

つまり、締め切り日にかかわらず、できるだけ早く出したほうがいい。

1: エービーシー(株)に電話で知らせるのではない。

2: エービーシー(株)に電話で知らせるのではない。

3: 11月7日が締め切り日だが、「先着順」なのでもっと早く出したほうがいい。

4: 正解

練習65

ジャズ・フェスティバル出演者募集の広告である。

問1

問い: 応募するのに必要なものは何か。

選択肢: 過去の演奏の録音? 参加費? 応募用紙? 演奏順の希望?

「応募方法」を見る。

「専用の応募用紙にご記入の上、過去の演奏の録音を必ず添えて、やまゆり市民会館まで…」

- 1：参加費は参加決定後でよい。応募用紙が必要である。
- 2：正解
- 3：参加費は参加決定後でよい。
- 4：参加費は参加決定後でよい。演奏順の希望は出せない（一任＝すべて任せること）。

問2

問：選考結果を知るにはどうしたらいいか。

選択肢：3月18日？ 3月25日？

郵送？ 市民会館で発表？ 市報に載る？ インターネットで発表？

「選考結果」を探す。「《注意》(3)」を見る。

「(3) 出演者の選考結果は、応募締め切り後1週間程度で発表する予定です。やまゆり市ホームページ「アマチュア・ジャズ・フェスティバル2011」のページでご確認ください。」

- 1：3月18日は応募締め切り日である。選考結果は郵送されてくるのではない。
- 2：選考結果はやまゆり市民会館で発表されるのではない。
- 3：市報「やまゆり市だより」の公演案内に選考結果が載るのではない。
- 4：正解

練習66

市報に載ったパソコンリサイクルについてのお知らせである。

問1

問：平成19年に買ったパソコンを処分するにはどうしたらいいか。

選択肢：どこに申し込む？ こん包は？ どこかに持って行く？ 回収してもらう？

「1. 回収の申し込み」を見る。

「メーカーの受付窓口で回収の申し込みを行います。」

「3. パソコンのこん包とエコゆうパック伝票の貼り付け」を見る。

「リサイクルするパソコンをこん包し、送付された「エコゆうパック伝票」を見やすい場所に貼ります。」(→パソコンの所有者がする)

- 1：正解
- 2：市のリサイクルセンターに申し込むのではない。
- 3：こん包は、郵便局の人がするのではない。
- 4：メーカーの再資源化施設に持ち込むのではない。エコゆうパックで送る。

問2

問い：PCリサイクルマークがないパソコンを処分するにはどうしたらいいか。

選択肢：どこに申し込む？ 料金は？

「※PCリサイクルマークがついていない製品…」を見る。

「…各メーカー受付窓口」に所定の方法を問い合わせてください。回収・再資源化料金を支払う必要
があります。」

- 1：正解
- 2：無料ではない。
- 3：市役所に申し込むのではない。
- 4：3R推進協会に申し込むのではない。

練習67

空手道場をネットで検索した結果の表である。

問1

問い：初めて空手を習う、週2回以上、という条件の場合、1年間の費用がいちばん安い道場はどこか。

キーワード「初めて習う(=初心者)」「週2回以上」「費用」「～金」「～料」を手がかりに情報を探す。

- 1：費用が高い(112,000円)。
- 2：週1回である。
- 3：正解(96,000円)
- 4：中上級者のみ。費用が高い(118,000円)。

問2

問い：週1回、午後7時半かそれ以降に始まる、という条件の場合、1年間の費用がいちばん安い道場はどこか。

キーワード「週1回」「午後7時半か、それ以降」「費用」「～金」「～料」を手がかりに情報を探す。

- 1：費用が高い(106,800円)。
- 2：正解(95,000円)
- 3：開始は7時からである。
- 4：開始は7時からである。費用が高い(118,000円)。

練習68

11月に行われる祭り・イベントの一覧である。

問1

と がついつか なのか じんじや おこな まつ
問い：11月5日から7日まで神社で行われる祭りはいくつあるか。

についで み
「日程」を見る。

いつか なのか やしろてんじんきく きやまよまつ はやし まつ
5日～7日→山城天神菊まつり、佐山夜祭り、林みつる祭り

ばしょ しょうさい み
「場所」「詳細」を見る。

じんじや やしろてんじんきく きやまよまつ
神社→山城天神菊まつり、佐山夜祭り

つまり、2つである。

2：正解

問2

と どうよび よるおこな まつ
問い：土曜日の夜行われる祭りはどれか。

ひわた しんじ やしろてんじんきく きやまよまつ だい かいくつ まつ いち なか さが
火渡りの神事、山城天神菊まつり、佐山夜祭り、第36回靴のめぐみ祭り市、の中から探す。

についで み
「日程」を見る。

どうよび ひわた しんじ やしろてんじんきく だい かいくつ まつ いち
土曜日→火渡りの神事、山城天神菊まつり、第36回靴のめぐみ祭り市

しょうさい み
「詳細」を見る。

よる ひわた しんじ
夜→火渡りの神事

1：正解

模擬試験

問題1

にがおえ か ぶんしょう
似顔絵について書かれた文章である。

1

にがおえ しょうぞうが たいひ ちゅうもく にがおえ ひつしや かんが よ と
「似顔絵」と「肖像画」の対比に注目して、似顔絵についての筆者の考えを読み取る。

にがおえ しょうぞうが ほうこうせい が まったく ぎやく
似顔絵と肖像画は「方向性」が「まったく逆」である。

しょうぞうが りつぱ いだい えが じょうじょう ほうこう ぞうけい
・肖像画＝「立派で偉大にみえるように描く」＝「上昇の方向で造形する」

にがおえ しょうぞうが ぎやく
・似顔絵＝肖像画の逆

にがおえ じつぶつ いだい み えが げんすんたい じつぶつ
つまり、似顔絵は「モデル」を実物より偉大に見えるようには描かず、原寸大(＝実物そのまま)か、

かこう ほうこう いだい えが
下降の方向で(＝偉大にみえないように)描くものだとわかる。

りつぱ えが しょうぞうが
1：立派にみえるように描くのは肖像画である。

2：正解

いだい じんぶつ えが てん こと
3：モデルが偉大な人物かどうかではなく、どう描くかという点が異なっている。

ほんにん えか めい えが えが こと
4：モデル本人が絵描きに命じたかどうかではなく、絵描きがどう描くかが異なっている。

問題2

監視について書かれた文章である。

2

「マンション入り口」の監視カメラと、「コンビニや街路」の監視カメラの対比に注目して、筆者の考えを読み取る。

- ・マンション入り口のもの＝居住者かどうか確認する＝特定少数者の同定
- ・コンビニや街路のもの＝人々が犯罪を起こさないかどうか見る＝不特定多数者の監視

「監視」には、このように異なる二つの側面があるのだ、と筆者は述べている。

- 1：一つの映像から両方が同時に観察可能だとは書かれていない。
- 2：公共の場では使用すべきでないとは書かれていない。
- 3：正解
- 4：設置すべき場所と時間については書かれていない。

問題3

自然保護と開発について書かれた文章である。

3

「ここでもまた、①逆説的な構図がある。」

逆説的＝真理に見えることが通らず、真理に反するよう見えることのほうが通る様子

「ここ」の指す内容(＝直前の文)を読み取る。対比に注目する。

- ・「自然とのかかわりが深いはずの人たち」(＝地元住民)
：自然保護を叫びそうなのに、開発を主張する
- ・「かかわりが少ない人」(＝「よそ者」)
：開発を主張しそうなのに、自然保護を叫ぶ

この現実が、真理に見えること(＝自然にかかわりが深い人は自然を守ろうとし、かかわりが少ない人は開発を優先する)とは逆になっているのである。

- 1：正解
- 2：山林を開発することが自然の保護につながっているとは書かれていない。
- 3：自然保護活動と人間の営みの衝突は、一見、真理に見えることである。逆説的ではない。
- 4：地元の振興発展のために自然保護活動をするのではない。

問題4

(株)ブックKの商品管理課の王さんから、(株)サムの営業部の谷さんに送られたファックスである。

4

タイトルを選ぶ問題なので、ファックスを送った目的を探す。

「さて」の後を見る。

「さて、…倉庫の棚卸を行います。注文受注、出荷処理は…翌営業日扱い(=お届け日変更)になります」

- 1: 棚卸しを行う12月16日は年末年始ではない。
- 2: 在庫不足が出荷処理遅延の理由ではない。
- 3: 正解
- 4: 注文受付方法変更については書かれていない。

問題5

科学研究には分析が必要だということについて書かれた文章である。

5

「分類ができてしまえば科学研究は終わりか」というと、①そんなことはない

「そんなこと」=「分類ができれば科学研究は終わり」

つまり、「そんなことはない」は「終わりではない(=分類することがゴールではない)」という意味である。

4: 正解

6

「②これでは蝶のコレクターと変わらない。」

「これ」=蝶をたくさん集めて、記録し、知識を深めること(下線部の前の2文から)

「単なるコレクターから科学者に脱皮できるかどうかは、その先の分析にかかっている」とあるので、科学者=分析する人、コレクター=分析しない人、である。

つまり、「コレクターと変わらない」とは、いくら知識を深めても、分析をしない人は、「単なるコレクター」であって、科学者とは呼べないのだという意味である。

- 1: コレクターと同じであり、以下ではない。
- 2: 「コレクターと変わらない」とは科学者と蝶のコレクターが同じだという意味ではない。
- 3: 正解
- 4: 「コレクターと変わらない」とは科学者と蝶のコレクターが同じだという意味ではない。

7

全体をまとめる。

第1段落: 科学では「分ける」ことが重要である。

第2段落: 分類は科学研究の始まりで、終わりではない。

第3段落: 科学者は分析するが、単なるコレクターは分析しない。

第4段落：「多様性の根底にある法則を発見するため」には分析が必要である。

つまり筆者は、科学研究とは自然現象を分析し、自然界の法則を見つけることだと述べている。

1：自然現象を分けるだけではない。

2：正解

3：自然現象を収集し、分類し、記録するだけでは、コレクターである。

4：自然現象についての経験的な知識を深めるだけでは、コレクターである。

問題6

自分探し、自分磨きについて書かれた文章である。

8

①「自分探し」といういい回しが苦手だ

「自分探し」について書かれている第1～2段落の内容から理由を読み取る。

筆者は第2段落で「自分への肥大した買い被りが気恥ずかしい。」と述べている。

「自分への肥大した買い被り」＝「今の自分は本来の姿ではないと思っている。…探している自分は、もっと素敵でいきいきとしていて知性に溢れた好人物…」

つまり、「自分探し」をしている人の、自分をもっとすばらしいはずだ、という思い込みが、苦手なのである。

1：嫌味なのは「鏡…あなたはいますよ」という筆者の発言である。「自分探しの旅に出る」という表現が嫌味なのではない。

2：劇的に変化すると考えているのは「自分探しに懸命な人々」で、筆者ではない。

3：幸福を招くかどうかについては書かれていない。

4：正解

9

「[Aは]②まったくおめでたい。」

「おめでたい」＝楽観的すぎて考えが足りない

前の文を見ると「…自分探しに懸命な人々は、旅に代表される環境の変化が、何か劇的な化学反応でも起こしてくれる(＝自分を大きく変えてくれる)と信じている。」とある。

ここから、A＝「自分探しに懸命な人々」だとわかる。

筆者は、環境が自分を変えてくれると信じている人々にあきれているのである。

1：「自分探しに懸命な人々は…おめでたい」は、筆者が思っていることである。

2：正解

3：「環境の変化が自分を変えてくれると信じている人々」が「おめでたい」のである。

4：「化学反応が起きると信じている人々」が「おめでたい」のである。

10

「自分磨き」について書かれている第4～5段落から筆者の意見を読み取る。

「…すごく下品だと思う」(第4段落)、「…知的と勘違いしている」(第5段落)

筆者は「自分磨き」をする人々に対して否定的であり、批判していることがわかる。

- 1: 正解
- 2: 長所については書かれていない。
- 3: 筆者は「自分磨き」自体を批判しているので、より上手に行う方法は提案していない。
- 4: 女性が多い理由は書かれていない。

問題7

河川緑地について書かれた文章である。

11

「…普通の山林や、河川敷を「①整備」し、なぜか「緑地」になる以前の方が、遥かに豊かな生態系が保たれていたりする。」

ここから、「整備」は山林や河川敷を、緑地にすることであり、整備するの前のほうが「豊かな生態系」がある、とわかる。

第4段落に整備の方法が具体的に書かれている。

ブルドーザーが入り、河川敷の自然を「根こそぎ潰して」、「コンクリートの土手に囲まれた真っ平らな芝生」の「緑地」にする。

つまり、「①整備」とは、もともとあった自然を潰し、人工的な緑を作ることである。

- 1: 「緑のないところに、緑ができた、と思われるかもしれないが」、そのような「話は聞かない」と書かれている。
- 2: 木や草が生えないようにするとは書かれていない。
- 3: 余計な木や草だけを取り除いたのではない。ブルドーザーで「根こそぎ潰して」いる。
- 4: 正解(人工的な自然=コンクリートの土手に囲まれた真っ平らな芝生の「緑地」)

12

「人や犬が通った跡は、…曲がりくねった小道になり、…人々を守って、②水辺に誘う。」

つまり小道が、人々を水辺に誘うのである。

「冬は寒風から、夏は強い陽射しから人々を守って」とあるので、この小道はニセアカシアの林の中にあることがわかる。

林の中の小道はとても気持ちがよく、人々を水辺まで散歩しようという気持ちにさせるのである。

- 1: 第2段落は、新しい河川緑地ではなく「ただの河川敷」のときの話である。
- 2: 正解

- 3: 水辺の植物のことは書かれていない。
 4: 涼しいことだけが、いい気持ちにさせる理由ではない。

13

「緑地」になる前と、なった後の対比に注目して、段落ごとに内容を見る。

第1段落: 「緑地」になる前のほうが、豊かな生態系が保たれていた。

第2段落: 緑地化する前の自然の豊かさについて

第3～4段落: 緑地化に伴う自然破壊について

つまり、緑地化前は豊かであった自然が、緑地化後は失われてしまったと述べており、文章全体をとおして、筆者は緑地化に否定的であることがわかる。

- 1: ブルドーザーを使った作業は紹介しているが、その手順を伝えたいのではない。
 2: 河川緑地に対する近所の人の評価は書かれていない。(団地の奥さんたちと「日陰がなくなって、やあねえ」と言っていたのは、「緑地」が完成する前である。
 3: 正解(疑問=否定的な考え)
 4: 調査をしたとは書かれていない。

問題8

人が映画館に行くことの原因について書かれた文章である。

14

「かつての喫茶店が①そうだった。」

=他人といるのに他人に見られず他人を見なくて済む「そんな空間」

=映画館

- 1: コーヒーショップは喫茶店と違い、「その風情はない」と書かれている。
 2: 正解
 3: 「その風情はない」のはコーヒーショップで、喫茶店ではない。
 4: ひとりにはなれない場所ではなく、ひとりになれる場所である。

15

「見るけれど見られない、②そんな存在になりたい…」

「そんな存在」は「[Aを]見るけれど[Bに]見られない」存在。

AとBが何かさかのぼって探す。

前の文「まるで…眼だけの存在(=他人には見られない存在)になって外を見る」から、Aは「外」、

Bは「他人」だとわかる。

つまり、②そんな存在とは、外の世界を見るが、他人には見られない存在である。

1: 正解

2: 映画を見ることができないとは書かれていない。

3: じぶんのことを見るのではない。

4: 安心しているかどうかは書かれていない。

16

「…^③いつも他人のなかで右往左往している〈わたし〉自身から、解き放ちたい…」

前後から下線部の言い換えを探す。

「他人のなかで右往左往している〈わたし〉」

= 「他人のあいだで神経をひりひりさせている〈わたし〉」

神経をひりひりさせるとはどういうことか、「他人」との関係に注目し、前の部分から読み取る。

「他人の視線に疲れ、それからみずからを外すことで、じぶんを弛めている…」

つまり、他人のあいだで神経をひりひりさせる = 他人の視線を気にして神経を疲れさせる、ということである。

1: 正解

2: 人に助けを求めている、とは書かれていない。

3: 「右往左往」は、他人の〈わたし〉自身への評価が高かったり低かったりすることではない。

4: ここでの「右往左往」は、ああしたほうがいいのか、こうしたほうがいいのか、と落ち着かない気持ちでいることの比喩である。実際に移動しているのではない。

17

段落ごとに内容をまとめる。

第1～5段落: 映画館 = 自分は見るけれど他人からは見られない存在になれる場所

→ 他人の視線から解放され、〈わたし〉から自分自身を解放する。

第6段落: 群衆のなかでは、じぶんと他人との区別があいまいになるので不安が薄らぐ。

第7段落: 映画館 = じぶんがだれでもなくなる心地よい場所 = 孤独すら忘れる場所

つまり、人はいつも他人の視線を気にして疲れているので、他人から見られない場所、そして、自分が自分でなくなる場所を、心地よく感じる。人が映画館に行くのは、映画館がそのような場所だからだ、と筆者は述べている。

1: 正解

2: 他人を見たくないからではなく、他人に見られたくないからである。

3: 孤独を楽しむのではなく、孤独であることを忘れるためである。

4: 孤独に耐えられなくなって映画館に行くのではない。また、ひとりではないことを確認して安心するのではない。

問題9

Aは、有害サイト対策法について解説した新聞記事である。

BとCは、有害サイト対策法に対する読者の意見である。

18

Aを見て11日に成立した法律を探し、その内容を読み取る。

「青少年が…できる環境整備法」(有害サイト対策法)が11日に成立した。

「対策法は携帯電話会社やネット接続会社に対し…フィルタリングサービスの提供を義務づける内容。」

4：正解

19

B Cから法律についての意見を探し、それを比べる。

B「この法律の趣旨そのものは評価する」(=趣旨はすばらしいと思う)

「だからといって、何でも条例や法で規制するという考えには賛同できない」

C「このような法律は必要だと思います」

B=趣旨には賛同しているが、法制化には賛成していない。

C=成立に賛成している。

1：正解

20

BとCの意見を見て、共通点を探す。

B「ネットの…対処のしかたを学ばせるべきである。そのような判断力をつけさせる教育の制度化こそ望まれる。」

C「子供たちが適切にインターネットを使用するようになるためのメディア教育が重要なんじゃないでしょうか。」

1：Bにしか書かれていない。

2：Cにしか書かれていない。

3：正解

4：法律によるメディア教育の義務化が必要だとはB Cいずれにも書かれていない。

問題10

人々の生き方の変化について書かれた文章である。

21

「このような変化(=性別分業意識が弱まったという変化(第1段落))の背景には、…長寿化に伴う

① ライフコースの変化があります。」

「長寿化に伴う」とあるので、① ライフコースの変化は長寿化を背景としていることがわかる。

長寿化を背景とする変化を探す。

「長寿化で…「その後の人生」を考えなければならなくなりました。」

つまり、寿命が長くなったため、退職後の人生も長くなったという変化である。

1：女性の考えが変わったのは、ライフコースの変化の結果である。ライフコースの変化自体を指しているのではない。

2：「経済状況の変化…とともに(=と並んで)」ライフコースの変化があると書かれている。経済の伸び悩みはライフコースの変化の理由ではない。

3：正解

4：核家族が増えて、夫婦が役割分担するようになったとは書かれていない。

22

「ライフコースの変化は、…② 男性にも決定的な影響を与えることになりました。それは…ことです。」「それ」は「影響」を指しているのので、その内容を見る。

「それは、「一家の稼ぎ手」という役割を定年で終えたあと…どのように家族の絆を持ち続けられるかという課題に直面すること…」

つまり、収入を得ない男性は家庭での「役割」がなくなるため、家族とのつながりが弱まるという課題に直面するのである。

1：家事を分担したいと考える男性については書かれていない。

2：正解(家族のなかで必要とされていないと感じる=家族の絆が持てない)

3：生きがいが見つからないとは書かれていない。

4：会社が精神的な居場所だとは書かれていない。

23

「いまや一人の男性が妻子に対して一生経済的責任を負うなどということは、不可能ではないとしても無理な時代になっています。③ 無理をすれば夫にとっても妻子にとっても、…幸せな状態ではありません。」

文をさかのぼると、「無理な時代」とある。

ここから、無理をすることは、夫が一人で家族を一生養おうとすることだ、とわかる。

1：正解

24

各段落をまとめる。

第1段落：夫婦の性別分業(=夫は外で働き、妻は家庭を守る)を当然とみなす意識は弱まっている。

第2段落：意識変化の背景には、ライフコースの変化がある。

第3段落：ライフコースの変化は家族のあり方に影響を与えている。

第4段落：男女の役割分担が柔軟になれば、家族の絆は深まるだろう。(=筆者の主張)

筆者は、ライフコースの変化が家族に与える影響(=家族の絆という課題)について述べ、この課題を乗り越えるためには、男女の役割分担を柔軟にするべきだと言っている。

- 1：女性が外に出ることによって家族の関係が良くなるとは書かれていない。
- 2：正解(男女の役割を固定化しない=役割分担が柔軟)
- 3：男性だけでなく、女性への助言も書かれている(「妻・母親が経済力をもっていれば…」)。
- 4：教育レベルや情報化については、筆者は意見を述べていない。

問題11

東京近郊にあるおすすめの温泉リストである。

25

日帰り(=入浴のみ)、露天風呂、安いという条件で探す。

- 1：「料金800円」より、選択肢4「入浴のみ500円」のほうが安い。
- 2：露天風呂がない。
- 3：日帰りは不可。
- 4：正解

26

伝統的な日本家屋、おいしい和食が食べられる、駅から徒歩5分以上なら送迎サービスが必要という条件で探す。

- 1：旅館ではない。和食がおいしいとは書かれていない。
- 2：伝統的な日本家屋ではない(7階、近代的)。
- 3：駅から徒歩15分だが、送迎サービスがない。
- 4：正解